

国語学習プリント

date: 年 月 日

学習内容: 比喻をとらえる 未来へ向かって

年 組 番

わたしを束ねないで

氏名



わたしを束ねないで 新川 和江

わたしを束ねないで  
あらせいとうの花のように  
白い葱のように

束ねないでください わたしは稲穂  
秋 大地が胸を焦めす  
見渡すかぎりの金色の稲穂

わたしを止めないで  
標本箱の昆虫のよつに  
高原からきた絵葉書のよつに

止めないでください わたしは羽撃き  
こやみなく空のひろさをかいさぐつている  
目には見えないつばさの音

わたしを注がないで  
日常性に薄められた牛乳のように  
ぬるい酒のように  
注がないでください わたしは海  
夜とほうもなく満ちてくる  
苦い潮ふちのない水

わたしを名付けしないで  
娘という名 妻という名  
重々しい母という名でしつらえた座に  
坐りきりにさせないでください わたしは風  
りんごの木と  
泉のありかを知っている風

わたしを区切らないで  
や...いくつかの段落  
そしておしまいに「さようなら」があったりする手紙のようには  
こまめにけりをつけしないでください わたしは終りのない文章  
川と同じに  
はてしなく流れていく 拡がっていく 一行の詩

▽この詩の形式は

口語自由詩 各連六行からなる五連構成

◇各連の共通項をさがしてみよう

各連の一行目が「○○○ないで」で統一  
各連六行構成 各連の最後が「体言止め」  
各連の四行目の最後も「体言止め」

▽あらせいとう

ストック(アブラナ科の多年草)

ブーケなどに用いられる

▽大地が胸を焦がすの「胸を焦がす」について

○用いられた表現技法

擬人法

○どんな意味合いとして捉えたらよいだろうか

思い焦がれる 金色にひろがる

ことを待ちこがれる

▽日常性に薄められた牛乳ぬるい酒とは何を表す(象徴する)のか

もともともっている本質の強さが失われたもの

▽『束ねる』『止める』『注ぐ』『名付ける』『区切る』という動詞から、受ける印象を感じ取ろう。

日常の中にある通念や概念に潜む自分らしい力強さを阻害するもの

※文法問題

a 『束ねる』『止める』『注ぐ』『名付ける』『区切る』の活用の種類を選べ。

(ウ) (ウ) (ア) (ウ) (ア) (ア)

ヒント 本文の「ない」につづく形を参照

b 本文中の『束ねない』『止めない』『...』などの動詞部分の活用形は未然形

